

化学工業日報

ボルネオ研究機関 と微生物研究提携

NGS

リード化合物 評価など 事業化権を取得

締結し、同国の土壌微生物へのアクセス権を取

得。今回の提携により、世界でも生物資源の豊かなボルネオ島を産業利用エリアに加えたことで、自社の天然物ライブラリーを一気に拡大させられる。同社はすでに大正製薬、三共と土壌微生物由来のリード化合物探索のための共同研究契約を交わしている。

バイオベンチャー企業のニムラ・ジェネティック・ソリューションズ(本社・神奈川県厚木市)清田圭一社長、略称・NGS)は、マレーシア・ボルネオ島にあるサラワク生物多様性センター(SBC)と、現地法人を通じて、微生物の共同研究について提携した。NGSでは、SBCの研究施設にかかわるノウハウの提供や技術支援を行う一方、未知の微生物由来の化合物の活性評価などの医薬品候補物質の研究を共同で進める。得られた成果をビジネス利用するが、商業目的でボルネオ島に生息する微生物が扱われる初めてのケースとなる。

同提携に基づきNGSは、SBCが計画している微生物研究所の企画から技術まで全面的に支援し、その費用のほとんどを負担。また採取、共同研究により得られた微生物由来の培養抽出物や化合物の薬物活性評価などを実施し、製薬メーカーなどへの販売権、ライセンス権、微生物由来のリード化合物へと発展させる。その成果をビジネスにできる事業化権を獲得した。

サラワク州は、唯一生物多様性に関する州法をもち、マレーシア連邦政府よりも規制が厳しく生物資源に対する国内外のアクセスが難しかった。NGSは、マレーシアの国立森林研究所(FRIM)と共同研究契約を